

小学校 道徳 部会

部会長 福智町立市場小学校 校長 藤田 昭介
実践者 福智町立市場小学校 教諭 秋元 理栄

1 研究主題

「生きる力」を育む道徳科学習指導の研究
～ 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を通して ～

2 主題設定の理由

(1) 社会の要請と新学習指導要領の動向から

生産年齢の減少、グローバル化の進展、絶え間ない技術革新等により、社会環境や雇用環境は大きく変化しており、予測が困難な時代になっている。また、急激な少子高齢化、成就社会にあって、一人一人が持続可能な社会の担い手として、多様性を原動力として、質的な豊かさを伴った成長につながる価値を生み出していくことが期待されている。

このような時代背景を踏まえて、子どもたちが様々な変化に積極的に向き合い、他者と協働して課題を解決していくことや様々な情報を見極め知識の概念的な理解を理解し、再構成し、新たな価値につなげていくことが求められている。

学校教育においては、今回の学習指導要領改訂にあたり、社会に開かれた教育課程、現行学習指導要領の枠組みや教育内容を維持しながら知識の理解の質をさらに高め確かな学力の育成、道徳教育の充実、体験活動の重視、体育・健康に関する指導の充実により、豊かな心や健やかな体を育成が述べられた。

さらに、道徳の教科化が提起された発端は天津市のいじめ自殺であるが、それからいじめ認知件数は増加の一方で深刻ないじめの本質的な問題解決が求められている。

これらを受けて、知識の理解の質を高め資質・能力を育む「主体的・対話的で深い学び」の実現のために、「何ができるようになるか」を明確化し、我が国の教育実践の蓄積に基づく授業改善の必要性が求められている。さらに、各学校におけるカリキュラム・マネジメントの確立が重視されている。道徳の時間においては、道徳的価値を自分事として理解し、多面的・多角的に深く考えたり、議論したりする道徳教育の充実が求められている。

以上のことから、新学習指導要領の全面実施を見据え、本主題を掲げた実践研究を行うことは、本郡学校教育の充実を図る上で意義深いと考える。

(2) 「特別の教科」である道徳の視点から

新たに位置づけられた道徳科は、国語等の各教科の並びとは一線を画した「特別な教科」であるとされた。その新たな方向性として以下の5点を挙げるができる。

- ・道徳教育と道徳科の目標を一体的に理解し共有する。
- ・道徳の内容を発達段階を踏まえより一貫性のあるものとする。
- ・「考え、議論する道徳」へ指導の一層の改善を図る。
- ・教科書を生かして特色あるカリキュラムを創造する。
- ・児童の人格を尊重した支援的な評価を継続する。

以上のように道徳の位置づけの趣旨を共有し、児童の視点に立った授業改善を図り、実現していくことは大切であると考え。さらに、道徳教育が人格の完成という中核的な役割を担うこともあり、多くの人々が共有できるような趣旨を踏まえその目標として「自己の生き方を考える」「主体的な判断の下に行動する」「自立した人間として他者と共によりよく生きる」ための基盤となる道徳性を養うこととした。

3 主題の意味

(1) 「生きる力」を育む道徳科学習指導

「生きる力」を育む学習指導とは、各教科、特別の教科道徳、総合的な学習の時間及び特別活動において、子どもの発達段階や特性等を踏まえつつ、次に掲げる3点の資質・能力を偏りなく育成できるような授業づくりを行うことである。

- ①生きて働く知識・技能を習得させること。
- ②思考力・判断力・表現力等を育成すること。
- ③学びに向かう力・人間性等を涵養すること。

道徳科においてはその目指すものとして、主体的な判断に基づいて道徳的実践を行い、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤を養うことでありその目標として次の3点を挙げている。

- ①道徳的価値の理解をもとに、自己を見つめる。
- ②多面的・多角的に考え、生き方についての考えを深める。
- ③道徳的な判断力、心情、実践的意欲と態度を育てる。

(2) 道徳科における「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善」とは

道徳科における「主体的学び」の視点について、答申では「児童生徒が問題意識を持ち、自己を見つめ、道徳的価値を自分自身との関わりで捉え、自己の生き方について考える学習とする。また、各教科で学んだこと、体験したことから道徳的価値に関して考えたことや感じたことを統合させ、自ら道徳性を養う中で、自らを振り返り成長を感じたり、これからの課題や目標を見付けたりすることができるように工夫すること」とされている。つまり、子どもが教材に描かれた事象を自らの生き方として捉え、道徳的価値について自らの生活を振り返ることで考えたりすること等を通して、理解し、発展させていくことへの思いや課題が自分のなりに培われていくことといえる。

道徳科における「対話的学び」の視点については、「子ども同士の協働、教員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えたり、自分と異なる意見と向かい合い議論することを通じ、自分自身の道徳的価値の理解を深めたり広げたりすること」と答申で述べている。つまり、多様な表現活動によって他者と思いを伝え合い、異なる考えに接し、多面的・多角的に考えていく中で、道徳的価値の理解を深めたり広げたりして見方を発展させていくことであるといえる。

道徳科における「深い学び」の視点からは、「道徳的諸価値の理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方について考える学習を通して、様々な場面、状況において、道徳的価値を実現するための問題状況を把握し、適切な行為を主体的に選択し、実践できるような資質・能力を育てる。」ことと答申で述べ

られている。つまり、道徳科の特質を踏まえた学習を行って、道徳教育及び道徳科の目標である「人間としてよりよく生きようとする道徳性」を育てていくように授業改善を行うことといえる。

以上のような学びの視点から、指導においては質の高い多様な学習活動を構成・展開することが大切である。また、道徳的諸価値の理解を基に自己との関わりで、広い視野から多面的・多角的に捉え、自己の生き方について考えていくことであり、この見方・考え方を児童が働かせることができるように授業改善をしていくことが求められる。

4 研究の目標

道徳科において、新学習指導要領が目指す「カリキュラム・マネジメント」「主体的・対話的で深い学びの実現」に向けた授業改善について究明する。

5 研究仮説

「何を学ぶか」「どのように学ぶか」「何ができるようになるか」を明らかにし、授業改善の実践研究を進めていけば、児童が新学習指導要領で求められている力（道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度）を身につけることができるであろう。

- (1) 問題意識を持って取り組むことができるように、ねらいを明確にする。
- (2) 考えをつくることができるように、表情図や役割演技等の表現活動を取り入れる。
- (3) 考えを広げることができるように、交流の場を設定する。

6 研究の計画（授業の計画）

(1) 主題「ともだちとなかよく」（第1学年） 友達と仲良くし、助け合うこと。

(2) 主題の目標及び指導計画

主題	ともだちとなかよく		総時数	2時間	時期	1月
主題の目標	○友達と仲良くし、助け合っていこうとする意欲を高めるために、これまでの自分の経験を振り返って考えることができる。					
次時	具体的な目標	学習活動・内容	指導上の留意点（援助・支援）			
1	1	友達と一緒にいて楽しかった場面や友達に助けてもらった場面などについて振り返ることができる。	アンケートを実施し、友達のことについて振り返り、考える。	日頃から行っているいいところ見つけを活かし、友達からしてもらってうれしかったことや友達と一緒にいて楽しかったことについて振り返る。		
	2	自分のことだけではなく、友達の気持ちも考えることができる。	読みもの資料を通して、望ましい友達関係を築く上で大切なことに気づく。	友達と仲良くすることについて考えるために、表情図をもとに気持ちを考える。		

7 指導の実際

学習活動および教師の働きかけ	児童の反応
【導入】	

- 1 アンケート結果から、価値の方向付けを行い、めあてを確認する。

めあて

ともだちとなかよくするために、大切な気持ちを見つめよう。

【展開前段】

- 2 状況把握ができるように、紙芝居やペープサートを行う。
(1) 「りすさんは、おげないから だめ。」と言った時の、3人の気持ちを話し合う。

みんなは、どんな気持ちから、「りすさんは、だめ。」と言ったのでしょうか。

- 仲間はずしにした3人に共感させるために、りすが泳げないことと、池の中に島があることを押さえる。



【写真1 紙芝居】

- (2) 島で相談し合っているときの3人の気持ちを話し合う。

島で話し合っているみんなは、どんなことを考えていたのでしょうか。

- 3人の気持ちをつかむことができるように、どうして楽しくないかを表情図をもとに考えさせたり、りすに対する気持ちの変化に気づかせたりする。



【写真2 表情図】

・アンケート「友達となかよくするために、大切なことは」の回答は、「やさしさ」「助け合い」「一緒に遊ぶ」が多かった。

・紙芝居を読んでいると、「えー、かわいそう。」「なんで？」というつぶやきがあった。

・発問①「りすさんは、泳げないからだめ。」と言ったときの気持ちを問うと、プラス面だけの考えしかでず、マイナス面は出てこなかった。こんな考えもあるかもしれないとマイナス意見を出してみたが、それにはあまり納得していなかった。

〈児童の反応〉

・連れて行きたいけれど、泳げないからだめ。

・りすさんは、おぼれちゃうからだめ。

・どの児童も自分のことだけでなく、りすのことを考えるものだった。ただ、話の内容に出てくるかめの背中に乗せるという考えを書いている児童も少なからずいた。

・ほとんどの児童が表情図をもとに気持ちを考えることができていたが、2名書けずに止まっている児童がいた。〈児童の反応〉

・やっぱりりすさんに謝って連れて行こうよ。

(3) りすと一緒に島へ行っているときの3人の気持ちを話し合う。

りすさんを背中に乗せて、島へ向かっている3人は、どんな気持ちになったでしょう。

○みんなで仲良くしている気持ちの良さを感じることができるように、表情図を書いたり、場面絵を示したワークシートに気持ちを書かせたりして、話し合わせる。



【写真3 交流場面】

【展開後段】

3 自分の経験を振り返り、考えを深める。

○自分の経験を振り返り、友達と仲良くするためにはどんなことが大切か話し合う。



【写真4 振り返り】

【終末】

4 教師の話聞き、まとめをする。

- ・みんなで遊びたい。
- ・楽しくないからりすさんも連れて行こう。
- ・かめさんの背中に乗せてあげればいい。
- ・どの考えにも「やっぱりりすさんが・・・」という言葉が書かれていた。3人ではなく4人がいいという気持ちが表れていた。

〈児童の反応〉

- ・やっぱりりすさんがいたら、楽しいな。
- ・やっぱり4人がいいな。
- ・やっぱりりすさんを連れてきてよかったな。
- ・友達と行った方が、もっと楽しくて遊べるし、気持ちいい。

- ・本時の内容に沿ったものを書いている児童と内容から離れて自分事として書いている児童がいた。どの考えも友達のことを考えて書かれていた。

〈児童の反応〉

- ・人のこともちゃんと考えてあげる。独りぼっちにしない。
- ・けんかをせず、仲良くする。人のことも考える。
- ・優しさ、褒め合う、仲良くする、助け合う。
- ・いつも一緒に遊ぶ。

- ・児童の写真は、日常生活の

○友達と仲良く活動している児童の写真を提示し、友達の気持ちを考えて仲良くすることの大切さを伝える。



【写真5 児童の写真】

様子が視覚的に分かりやすく、自分事として考えることができていた。

8 研究のまとめ

本研究のまとめとして、事前事後の児童の様子を比較した。事前の児童の様子として、相手の立場に立って考えることが難しく、相手にいやな思いをさせていることに気づけないことがよくあった。事後の児童の様子としては、大きな変化はないが、児童の会話の中に「この間の道徳で勉強したね。今がそれやん。」という言葉が出ていた。

新学習指導要領が目指す「カリキュラム・マネジメント」「主体的・対話的で深い学びの実現」に向けた授業改善のために、実践を行ってきた。その成果はわずかではあるが、今回の実践で明らかになった課題を次年度の取り組みに活かしていきたい。

9 成果と今後の課題

○資料は配付せずに紙芝居にしたことで、児童は話に引き込まれていた。児童のつぶやきも出ていたので有効であった。

○表情図を書かせた後に気持ちを書かせる手立ては、表現の苦手な児童にとって有効であった。

●導入のアンケートでは、プラス面しか出なかったため、理想だけでなく現実はどうかと問いかけ、めあてへつなげていきたい。

●表情図を書くことに苦手さのある児童への配慮が足りなかった。手立てとしては、モデルを示し、その中から選ばせるようにしていく。

●登場人物の気持ちを問う授業に偏っていた。自分事として捉えさせる活動がさらに必要であった。

◎参考文献

- ・小学校学習指導要領解説 総則編
- ・小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編
- ・平成29年度小学校新学習指導要領ポイント整理特別の教科道徳 東洋館出版
- ・全時間の授業展開で見せる「考え、議論する道徳」 学事出版
- ・文部科学省ホームページ